

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌

# KEIWA

## COLLEGE REPORT

### 第5号

〈AUGUST 1994〉

発行/敬和学園大学広報委員会



CLOSE UP

## 私と新潟県

特集 SPECIAL REPORT

### オレンジ市とノースウェスタン大学再訪

にいがたの一冊 〈新島 襄とアーモスト大学〉

1994年度 敬和学園大学公開講座のご案内「現代の国際社会」





敬和学園大学では新生を迎えるたびに、特別の講師を招いて「新生歓迎公開学術講演会」を開催し、新生に知的な刺激を与えると同時に、その講演を市民の皆さんにも開放してきました。1992年には森浩一教授(同志社大学)に考古学の話をしていただき、1993年には藤倉皓一郎教授(東京大学)に環境問題を論じていただきました。本年はアメリカ研究の第一人者である東京女子大学の本間長世教授を迎えて、学生生活を踏みだす若者たちに、二十一世紀に焦点を合わせて、力強いはなむけの言葉を頂きました。

敬和学園大学 新生歓迎公開学術講演会  
**「二十一世紀のための学問」**  
東京大学名誉教授・東京女子大学教授  
 講師 **本間長世氏**  
主催/敬和学園大学  
後援/新発田市・聖籠町・新発田市教育委員会・聖籠町教育委員会



## もくじ

私と新潟県……………	1	学長室だより……………	10
就職相談室から……………	4	1994年度高校別・県別統計表……………	10
教育実習を終えて……………	5	ボランティア指導室より……………	11
(特集) オレンジ市とノースウェスタン大学再訪…	6	1994年度入試結果について……………	12
1994年度公開講座のご案内……………	8	入学試験の概要……………	13
にいがたの一冊(新島襄とアーモスト大学)……	9		

# 私と新潟県

国際文化学科主任・教授

田原 嗣 郎

一九九一年の秋から新潟に住んでいる。

それよりずっと前のことだが、柏崎にいたことがあるから新潟県は二度目なのである。はじめて新潟県の柏崎にいったのは戦争が終わった翌年の夏のこと上で越線経由だった。その頃は汽車の切符を買うということだけでも一仕事というのが実情であった。

その翌年の事だが、寮にはもう食べさせる物がないというので、五月にやっと新学期が始まったばかりというのに、六月一日から夏休みになって、帰省せざるを得ず、渋谷駅に切符を買いに行ったことがある。

切符といてもただ乗る権利に過ぎず、実際に乗れるか、さらに座席にありつければ無関係のものだったが、なかなか簡単に買えないのである。まず駅の前のひろば、（といっても現在の渋谷駅しか知らない人にはどこのことか分らないだろうが）には駅員の指示で乗車する線別にいくつもの列が出来ていて、毎朝八時になると、係の駅員が来て並んでいる者の点呼をし、初めて

来た者の名を登録する。そして先頭からの何人かに切符を購入するための整理券を渡す。それを毎日繰り返し返すのである。その日の状況から判断すると、私が整理券を手に出れるのはそれから一週間後であった。このときは整理券を余分に持っていた人がそれを譲ってくれて、翌日を待たず問題は解決した。なんでもその人の息子さんが高専の高等学校に行っていて、同じような白線の帽子をかぶった私を見て親しみを感じて譲ってくれる気持ちになったのだそうだが、そういう幸運は滅多にあるものではない。上越線の切符も苦労して手に入れたのに違いないが、その事情は忘れた。

汽車に乗るのも大変だった。切符を手に入れた人が改札口から並んでいる。何時間も何時間も並ぶのである。もっとも長時間待ったからといって必ず汽車に乗れるわけではない。並ぶ列が続いて駅のそとに出る。このとき構内にいる人はまず乗れる。坐れるのではない。ただ乗れるだけだ。このと

きはこういうはずみだったか、上野から坐っていた。暑い最中だったが、清水トンネルを抜けると、それまでシャツまで脱いで無作法な格好をしていた連中がみな行儀を修正していた。

当時、国鉄には急行などと云うものはない、柏崎に行くには宮内で乗換えるのである。宮内の駅はあたりになにも見えないひろっぱのような所にたぐさんの線路が並列していたと覚えていいる。記憶は怪しいが、駅から少し離れたところで食事をしたのは確かである。夕やみのせまる頃であった。外食券を出して食べた。米の御飯と野菜の天ぷらであった。そういうまともなものが出たのは予想外の事だったから、よく覚えていいる。

柏崎に着いたのは夜だった筈だ。私は父と二人で旅行したのだが、当時父は帝国石油会社に勤めていて、台湾から引揚げたばかりで、本社が東京から柏崎に移転していたので、そこに赴いたのであり、私は単に



# CLOSE UP

同行したのである。

柏崎では当初社員の寮にいた。そこは副總裁の社宅だったが、海軍中將であった彼が敗戦後辞職したので、海外から引揚げた社員の寮に転用したものであった。ほんの数日のことだったが、ボルネオから引きあげた若い社員もいたが、経理部長といった重役級の人も何人も居て、フライパンで大豆などを煎りながらいろんな話をしてくれた。この寮は後に保健所かまたは保健所付きの官舎になったらしかったが、いまはもうないかも知れない。次に地名は忘れたが、旧新潟鐵工所の工場―それは賠償物に指定されていて、休業中だったが―に近い民家の二階に移った。会社が借りて提供したもので、柏崎の町中に帝石会社が借りた家があり、喫茶店や料亭は殆ど会社の事務所や社員の寮になっている感じだった。我々が住んだ家の主人は日本石油に勤める大工だったが、たった一人の男の子が戦死したことをいつも悔やんでいた。そこに一月ほど居て今度は新しい一戸建ちの社宅にはいった。父が出張中で私が一人でカバンを提げて歩いて引越した。本町四丁目という町の真ん中である。



十月には母や妹が来てそこで四年間を暮らすことになるのだが、私が続けて居たのはひと冬だけだった。新潟県といえば雪である。果たしてわれわれは驚くべき雪に見舞われた。十二月か一月かは忘れたが、ある雪の日の朝、玄關の外で大きな声があるので出てみると、一夜のうちに胸までも降り積もった雪の中に新聞配達のおばさんが泳ぐようにもがきながらもわが家の門に達することができず、除雪がしてないことを非難して声を発したという事情が判明した。雪が降れば除雪をするという新潟県では普遍的に通用する道理が「旅の人」であるわれわれの脳中にたたき込まれたのである。それは面白くもあった。柏崎は風の強い所である。古い家の二階にでもいればまるで船に乗っているかの如くだと云う。静かな冬の夜はすなわち雪の降る夜で、雪はみるみる積もって行く。二メートルも積もるのである。雪が積もればバスは連休である。十二月の半ばから翌年三月まで、自動車は動かず、運搬は牛か人間が轆を引く。視界がほんの三メートルしかないような激しい雪の中を歩いていくと、轆を牽く牛がすべって横転した。それがぼんやりと見える。美しく印象的な光景であった。「旅の人」という言葉はそこで初めて聞いた。何代も住み着いていない者を差別する語感をもつこの言葉は、停滞する越後の後進性と独善的な性格を表すかのように聞こ

える。小学校を出るまで京都に住んでそこで言葉の基礎を身につけてしまった私は東京に移ったときにはもっぱらアクセントで困ったが、新しい土地では新たな知らぬ言葉にぶつかることになる。北大に勤めてまもない頃、診療を受けた北大病院の医師から「こわくないですか」といわれたときはほんとに驚いた。大人でも医者を怖がる人がいるのだろうか？ こちらが不思議そうな顔をしたらしく、向うは「疲れませんが」と問い直した。

柏崎にいた頃は妹の友達の小学生の女の子が自分の事を「おれ」、自分の家は「おれんち」といつていたが、そんなことでは驚かない。びっくりしたのは「せつない」と云う言葉を聞いたことである。「せつない」はもちろん言葉としては知っていた。いろんなところで何度も読んだからである。しかし私は文章語だと思っていた。現代に実際に使われることとは知らなかった。大人も子供も普通の言葉をつかうように「せつない」というのだから、びっくりしたが、「せつねえ」と発音する人もいて、これはすこしいやな気持ちになった。もう一つは「大儀」である。「余は大儀じゃ」とか「皆の者大儀じゃ」といった具合に大名などが発する昔のことばだとばかり思っていたのに、その辺に在るあまりばっとしないようなおじさんなどが大儀だなど云うものだから、がっかりした。こういってしまえば単にこちらの無学をさらけ出すだ



# CLOSE UP

けのことなのかも知れないが、事実なんだからいかんともしようがない。

食べるものの乏しい時だったから、食べられない変ったものを食べさせられて……という経験はない。京都から東京に行ったとき、京都駅を夜行列車で発って初めて寝台車というものに乗ったのだが、東京に着いた日の夕方、渋谷駅近くの寿司屋でちらし鮎を食べた。ちらし鮎といえは御飯の中にたくさんの具がはいっていて、上には細く切った卵焼きと海苔が一面にちらしてあるものである。それが京都で育った十二才の少年の常識であった。というのに、もってきた「ちらし」なるものはただの白い御飯の上に生魚の切れっばしがいくつか乗っかっているだけという代物ではないか！

東京に着いたその日にこのカルチャーショックに逢着したのであった。「さくら御飯」と呼んでいたものを「醤油めし」という奴がいたのには閉口した。「あずまえびす」とはこのことかと思った。そのほかにもいろいろあるが、それらは越後とも柏崎とも関係がない。

すぐ前に云ったように食べ物についてのカルチャーショックはなかったのだが、少し変ったショックがあった。越後での初めての冬を前にして、その土地在住の人が勧告してくれた。雪が降るともう野菜は全く手に入りません。御宅の人数なら大根を百貫買って穴に埋めておかなくてはどのようにもなりませんよ。父と母は考えた。たしかに

雪が降れば野菜は手に入るまい、牛蒡も人参も埋めておかねばならぬだろう、そのために床の下には穴が掘ってある、しかし、いくらなんでも百貫はいらないだろう、でも、せっかくの勧告なんだから半分の五十貫にしよう。というので、大根の五十貫を購入した。大根についている葉っぱを切り取ったら、山のように盛り上がった。冬の間、床板をあげて穴から大根や牛蒡を掘り出しては食べたのはもちろんである。三月になって雪がとけ、新鮮な野菜が店頭に並ぶ時期になった。というのにわが家の大根は六割以上も手つかずである。仕方がないから大根を掘り出し、細かに切り刻んでぶら下げて干し大根にしたのだが、それには悩まされたものである。百貫の大根を買うように勧めた人は旅の者をからかっていっぱい食わせたのかというところから、よくよく聞いてみると当時の柏崎では冬期は朝は大根のみそ汁、昼は大根おろし、夕食には大根の煮付けを何か月も連続的に食べるのが一般で、そういうことが出来なかったこちらが悪いと云うことになる。それにしても越後の冬はすさまじいものであったのだ。こんなことはいまではもう民俗学の資料のようなものに化けているだろうが、真実の話である。

話がやや深刻になってきたから息ぬきにもう一つ愉快な食べ物の話を追加しよう。それは蓮の餡掛けである。餡掛けというのは普通はくず餡をかけた料理のことで、とうがん(冬瓜)のあんかけにはこどもとさから閉口してきた。柏崎の蓮の餡掛けはそういうものではない。小豆を煮て砂糖で甘くした餡、饅頭などにはいっているあの餡のなかに茹でた蓮根が散在したものである。柏崎に来てから知り合った人からそれを貰ったときは家中でびっくりした。が、蓮根にしても小豆の餡にしても熟知したもので、蓮根の切れっばしを取り出せばただの餡であるから、なんのことはないが、われわれには不思議な食べ物であった。かりん糖だって東京に行くまでは食べたことがなかったのだから、蓮のあんかけもそのたぐいかも知れないと思って念の為に『大日本国語辞典』でしらべてみたが、くずあんをかけた料理しか出ていないから、これはやはり珍しい料理なのに違いない。

いまは新潟県は二度目でもあり、地方文化が衰退して日本中が平均化され、砂糖水に漬けられたような調子になっているせい、こちらがすれからしたためか、初回のような新鮮味のあることには会わない。新潟にきた翌年の五月にはいっばいに水を張ったたんぼが線路の両側にひろがる風景が珍しかった。

今回は毒気のない文章を書こうと云うので昔のことを思い出してみた。五十年近い歳月を経て記憶があやしくなっていることがわかる。



# 就職相談室から

七月一日に就職戦線が解禁となり、学生の活動も一層活発になっていきますが、本学の様子が就職委員長の菅野教授にお聞きしました。

— まず、現在の状況についてお聞かせください。 —

良くやっている学生とのんびりしている学生とかなり差があるようです。現在は、六月の末から七月の初旬にかけての第一ラウンドが終わった時期で、この間に内定をした学生もおります。これから夏休みに入りますと、第二ラウンドとすることで、中小企業言わば地場産業の方に目を向けなさいと指導しているわけです。ようやくあせってきた学生もいるようですが、先日もかなり前からガイダンスの案内をゼミを通じてだしていたにもかかわらず、出席者は五十名程と少ない状態でした。

— 就職相談室に新しい職員が採用になったようですが。 —

はい、六月二十日から山田頭氏（前日産サニ―新潟販売（株）常務取締役）が就職相談室主事として非常勤で勤務いただいております。山田さんには主に企業の開拓と情報収集を担当いただくことになっていきます。今まで本学の教員が企業訪問をしていましたが、片手間では追いつかなくなってきましたので、企業に詳しい方を探していたのです。山田さんは当面週に四日ほど出勤いただくことになりました。

— 七月一日から求人票を張り出したようですが、何社くらいあるのでしょうか。 —

求人票としては二百五十社程ですが、そのほかにもこちらから電話で各企業に問い合わせる用計画がある企業を掲載したホット情報が四十社くらいあり、まだ少しづつ増えています。既に募集を終わった企業も始めていますので、これから印をしていくことになります。

— 新潟市が中心ですか。 —

そうとも限りません。先日も上越市の企業が学生と面接するために、わざわざ来学してくださいました。

このように十数社から特別枠で採用して下さるといふ有り難い申し出があるのですが、まだ決まっています。

— 就職課程を履修している学生の動向はどうですか。 —

就職相談室では充分には把握はしていませんが、担当教員から聞くところによると、既に教育実習を行った学生が三十四名で、秋にもう二人行う予定になっていますが、そのうち実際に教員になれる数は三人から五人くらいではないかということですね。

— 昨年から公務員講座を開講していますが、そちらの方はいかがでしょうか。 —

学校からもご援助いただいて開講したわけですが、今年数回模擬試験を実施しました。その結果、成績の良い学生は、全国レベルでもかなり上位に位置する者もあり、新潟市、新発田市、聖籠町を中心に、五人から八人くらいは合格してもらいたいと願っています。今ちょうど地方公務員試験が各地で実施され始めたところですが、この公務員講座は昨年は十二月から開講いたしました。今年九月から始める予定で、三年次生を対象に募集したところ、七十五名程の申し込みがありました。この講座は一般の企業の就職試験のためにも勉強になりますので、多くの学生に受講して欲しいものです。

— ところで内定がでる時期ですが、どのような状況ですか。 —

現在六十五名程は内定或いは家業を継ぐといった進路が決まっています。ここに興味深い現象があるのですが、成績の上位の学生と下位の学生から決まり初めているのです。これは、上位の学生は成績に自信があるため、自分自身にも自信があり、積極的に活動しているためだと思われる。下位の学生は成績では勝負しにく

いので、個性を上手に前面に出している結果ではないかと思えます。企業の人事担当者に向いますと、成績が良いに越したことはないが、人物判断は面接に負うところが大きいといえます。本学の余り良くないカラーとして、「おとなしい」というイメージがうまれつつあるようですが、就職活動には「たくましさ」が必要で、私達もその点を充分心得て指導しなければならぬと思っています。

— 最後に、今お困りな点は何でしょうか。 —

既に大手の企業は採用は終わっていますので、これから地元の中小企業に目を向けさせたいのですが、学校が夏休みに入っておりますので、学生を指導する方法がない、連絡がつかないです。また、これは保護者の方にもご理解いただきたいのですが、地場産業にも優良企業がたくさんあり、就職先として魅力があるということです。これらの求人数だけでも全学生の就職数を上回っています。このことを紙面をかりて周知したいと思えます。

私は今年度の就職率は九十パーセントまでもっていただけの良いと思っています。しかし、今のような状態ではむしろ数字だと思えます。これからも全学を挙げて取り組まなければならないと思います。

— お忙しいところありがとうございます。先生は昨年も今年も夏期休暇中はほとんど毎日ご出勤になり、学生の指導をいただいておりますが、猛暑の中ご健康をお祈りいたしております。

次に、就職課程の教育実習を終えた学生に感想文を寄稿いただきましたので、掲載いたします。

（聞き手 長澤）



3年次生就職セミナー



# 教育実習を終えて

汐谷千佳

私は、六月六日から六月十八日までの二週間、母校である新潟清心女子高等学校で実習校実習を行った。昨年から教職課程を履習し一年余り勉強してきた。しかし、昨年は実習がずっと先のこのような気がしていたため、勉強してきたことがなかなか自分のものにはならず、今年に入ってからやっと本腰を入れて勉強しようなのだった。そんなこともあり、私の場合、自信を持って実習に臨むという訳にはいかなかった。

実習では、幸い、在学中にお世話になった先生が指導教員だったため、緊張しすぎることなく伸び伸びと二週間を過ごすことができた。私は教壇実習は一年生だけだったにも関わらず、教材研究にはかなりの時間が必要だった。実際に教壇に立つと思えば、質問が飛び出すので、どんなに教材研究しても過ぎることはないと思った。また、高等学校では今年から新しく「オーラル・コミュニケーション」という科目が置かれ、生徒の英語の運用能力を伸ばす教育を行っている。従って私の在学中とは授業形態などがかなり違っていた。授業は、当然ながら殆ど英語で進められる。教師は、生徒に対する指示から授業中の生徒との会話まで、殆ど英語で行っていた。私は英語で話すことに強い苦手意識を持っていたため、教壇では、自分でかなり意識しないとすぐに日本語で話してしまっただ。授業では、最後までうまく英語を使えず、実習前から訓練するべきだったと後悔した。

生徒とのコミュニケーションは実習前の不安のひとつだったが、生徒たちは私たち実習生よ

りも積極的に、自由に話し掛けて来る生徒が多かった。しかし、これは教師に、生徒に自ら関わっていかうとする気持ちが必要ならば、生徒の気持ちも決して教師の方へくることがはないと感じた。生徒が私たち実習生に求めていたのは、授業での英語の指導と、その他に、「教師」ではなく、対等に話したり相談したりできる「人間」だったという気がする。このことは、いつか教師になった時に考えなければいけない問題だと思ふ。

昨年から多くの先生に教えてきていただいたことにより無事、実習を終えることができた。わずかに2週間の実習だったが、これまで勉強してきた一年余りに勝るとも劣らない、中身の濃い2週間だった。この貴重な体験をこれから、大いに生かしてゆきたいと思ふ。

## 「でもしか先生」

長谷川

知

私は母校の中学へ、二週間の教育実習に行ってきた。かつて学んだ場所を教える立場で訪ねる事は、とても不思議な感じがした。実習前はとても不安だった。弱気になりそうな自分。「ここまできたら自信を持ってやるしかない。学校でいっばい恥をかこう、その恥を踏み台にしていくんだ。」と言い聞かせた。実習の二週間は、あつという間に過ぎていった。

一週目は授業参観で、色々な授業を見せてもらった。私は指導教諭の授業を参観し、彼の

授業展開を学んでいった。普段は小柄な彼が授業になると大きく見え、彼の優しさが授業の随所に表われていた。授業にその教師の人格が表われる事を再確認できた。二週目、とうとう私が授業する時がやってきた。いきなり初めの授業で失敗してしまった。テープレコーダーが故障していたのである。慌てて教務室にかけ込んだ。心臓ドキドキ、汗ダラダラ、平静を装うのに精一杯の私であった。この様に私は失敗だらけだったが、教諭は少しでも私の良い所を見つけて励ましてくれた。それがどれだけ私を支え、勇気づけたことか、わからない。

実習を重ねる度に少しずつだが、教師として必要な真摯さ、教えることの面白さと難しさを感じていった。満足にできた授業は一つもないが、教科書と指導案を忘れてしまった最後の授業は、自分らしく楽しく授業ができたと思う。指導案なしに授業する事で、指導案に縛られ、自分の個性が消されている事に気付いた。授業は指導案が全てではなく、生徒の反応を見ながら臨機応変に展開する事が大切なのである。

最終日、配属学級の教諭は素晴らしいメッセージを私に贈ってくれた。「現代のでもしか先生を目指して下さい。いつも生徒の立場になって考え、これでもかこれでもかと生徒に愛情を注ぐ事しかできない先生に。そのために、いつも愛情という電を充電する事を心がけて下さい。必ず先生になりましょう。」と。自分の全力を尽くし、愛情をもって生徒を育てる教師になりたい。二週間の貴重な経験を通じて学んだ事は計り知れない。この経験をいかして、絶対教師になりたい。



### オレンジ市と

# ノースウエスタン大学再訪

学長 北垣 宗 治

「再訪」と書いたが、じつはこれは四度目の訪問である。

ノースウエスタン大学のヴァンダヴェルフ教授を私に紹介して下さったのは、敬和学園高等学校のモス先生であった。一九九〇年夏のある日、ヴァンダヴェルフ教授と私とは東京駅の銀の鈴の下ではじめて「デート」した。そして最初から意気投合した。それで私はその年の秋の十一月、つまり大学が開学する少し前に、二人の新発田市民とともにアイオワ州オレンジ・シティーに赴き、ノースウエスタン大学と敬和学園大学はキリスト教主義教育に関するパートナーとして協力し合うという盟約を結んだ。これが私の第一回目のノースウエスタン大学訪問であった。

その盟約に基づき、敬和は一九九一年に七人、九二年に三人、九三年に六人をノースウエスタン大学の五週間にわたるサマー・インスティテュートに送った。今年の夏は三人が参加する予定である。私はノースウエスタン大学が外国人学生のためにどのよ

うな夏期プログラムを実践するのかを知っておくべきだと考え、最初の九一年夏には七人の学生たちとともに、はじめから終りまでそのプログラムに参加した。ヴァンダヴェルフ教授の熱心な指導のもとに、実に充実した英語教育と、ヨハネ福音書を通してのキリスト教入門講座が用意されていた。

英語担当で、エネルギーに満ちあふれたタカロ先生と四人の助手たちは親切で、気配りがよく行き届いた。助手のうち三人は学生だったが、まさしくアメリカの頼もしい若者の見本だった。アメリカ中西部の農村文化と歴史についてもいろいろと学んだ。インディアン居留地をも訪れ、全国から集まってきたインディアンのお祭りを見学した。ヴァンダヴェルフ教授自身が外国からやってきた参加学生たちをミニ・バスにのせて運転して回られた。なぜこんなに親切にしろらうのだろうか、不思議に思った学生もいた。

九二年夏には新発田市の近寅彦市長、二階堂馨市議会議長、その他十数人の新発田

の市民をオレンジ市とノースウエスタン大学に案内した。そして今年、九四年五月には、新発田市の藤倉庄平助役と二人の市会議員、聖籠町の町議会議長と教育長を案内した。オレンジ市ではすでに新発田・聖籠さえ同意すれば、友好都市関係を結ぶということを昨年九月に市議会で議決している。こうした地方自治体同士の国境を超えての友好関係は、敬和とノースウエスタン両大学の間のしつかりした友情の基礎の上にこそ築かれるのである。

今年の訪問団には本学の宗教主任である延原時行教授にも参加をお願いした。それはキリスト教主義教育に関して、ノースウエスタン大学のキリスト教学・キリスト教教育担当者との間に十分な意志の疎通をお願いしたかったからである。

この四度目の訪問には、いままでとはまったく違った一面があった。それは五月のチューリップ祭りという、オレンジ市の最大の祝祭の時期を選んだということである。チューリップはオランダの花であり、またそれは新潟県の花でもある。私がそれまでに三度訪れたオレンジ市はきわめて静かな、落ち着いた、中西部の町にすぎなかった。それが今度はとても人口五千の町とは思えない賑わいを見せていた。オレンジ市は十九世紀にオランダの移民が築いた町である。十六世紀のオレンジ公ウイリアムはオランダを大國スペインの圧政から解放して、オランダの独立を勝ち取った救国の英雄である。したがって「オレンジ」という名はオランダ人にとって解放の象徴であるという。このような歴史的背景をもつオレンジ市民は、このチューリップ祭りにはそれぞれが古い



## SPECIAL REPORT

オランダの民族衣装で盛装して諸行事に熱中する。その行事のクライマックスはパレードだった。

市内の公園にはチューリップが咲き誇っていたが、新潟県から来たものの目には、さほど豪華とはみえなかった。個人の庭を訪問者に開放している家もあった。

私たち訪問者は「センチュリー・ホーム」と呼ばれる、二十世紀初頭に建築されたこの町の初代市長アントニー・ベッテンの美しい家屋を見学した。この建物ほのちに裁判官となったマーティン・ヴァン・オースターハウトが所有したもので、屋内には最初期の移民がもたらしたオランダ製の時計、そして手製の小型パイプオルガンなどがある。各部屋にはこの町の奥さんたちがオランダ風の服装をしてヴォランティアアとして配置されて、見学者への説明にあたっていた。ヴァンダヴェルフ夫人も説明係の一人だった。

この祝祭の出しものひとつは市民有志によるミュージカルで、今年「ウエストサイド物語」を上演した。これは映画としても有名になったもので、話の筋はシェイクスピアの「ロミオとジュリエット」が下敷きになっているので、セリフが十分にわからなくても楽しめた。主役はミュージカルに経験のある人たちだったが、ほとんどの出演者は大学生や高校生、町の人たちから成る素人であり、舞台装置、広告から楽団の構成にいたるまで町中総出で協力しているようであった。

「ダッチ・ダズン」という娘たち十二人のグループは、やはりオランダの衣装で、木靴をはいて登場し、オランダの歌と踊り

を披露した。

オランダ市の市民は、そのルーツを辿ると、オランダの各州に分散していく。そこで広場の集りでは州ごとにその子孫たちが紹介され、州ごとにそれぞれ独自の衣装をつけて、老人、壮年、子供たちが道路の両脇の見物客にむかってお辞儀をして拍手を浴びた。ヴァンダヴェルフ教授も夫人と一緒にそのようにして見物客の前に立った。

しかし、いちばんの呼び物はなんとといってもパレードであった。この町ではパレードに先立ち、オランダ服の女性たちが一斉に道路をモップで「ごしごし」こすって掃除することが行事に組み入れられている。男たちは水を撒く役である。それが終わってから、色彩豊かなパレードが続いた。オランダ市の旗、米国とオランダの国旗。この日のチューリップ女王とその侍女たち。中学生や高校生の吹奏楽団。団体や会社の想像力たくましいデコレーションの車。隣の町から援助出演した楽団。アイオワ州のプランスタッド知事も手をふりながら笑顔をかんにふりまいていたが、

知事だからといって先頭車に乗せたりしないところが面白かった。これがクリントン大統領が来たなら、たぶん先頭を行かせただろう、という説明をうけた。このパレードに新発田の「安兵衛太鼓」が参加する日があることが期待される。

オランダ市のレセプションでは、ドン・ヴァンダストープ市長が藤倉助役と遠

藤聖電町会議長にむけて友好都市関係を樹立したいとの希望をあらためて表明した。ノースウエスタン大学における歓迎晩餐会ではスウィア副学長が代表して、敬和学園大学との交流の重要さを強調し、歓迎の意を表明した。じつになごやかな交流のひとつであった。

写真の説明をもってこの一文をしめくくりたい。これはオランダ風の風車をもつ町の銀行を前にして撮ったもので、向って右からヴァンダヴェルフ教授、延原時行教授、オランダ衣装をつけたラヴレイディ講師（この先生はイギリス出身で、ノースウエスタン大学では修辞学を担当してきた。この日は郷に入っては郷に従い、ガリヴァーのような服装で案内して下さった。私は一度この人の運転でオランダ市からサウス・ダコタ州のスー・フォールズ空港まで送って頂いたことがある）、藤倉庄平新発田市助役、そして筆者である。



（撮影者・仙澤計美事務局長）



1994年度 敬和学園大学公開講座のご案内

# 「現代の国際社会」

恒例となりました本学の公開講座も4年目を迎え、今年は「現代の国際社会」という主題を選び下記のとおり開催いたします。ふるってご参加下さい。

1. 日 時 10月7日から11月25日までの毎週金曜日  
午後7時～午後8時30分  
(第一回は開講式のため、6時45分から)
2. 会 場 新発田市生涯学習センター(外ヶ輪小学校隣)
3. 参加費 3,000円
4. 申し込み 9月30日までに参加費を添えて、敬和学園大学または新発田市生涯学習センターへ

## プログラム

回	開 講 日	講 師	テ ー マ
1	10月7日	開講式(6時45分から) パネル・ディスカッション「現代の国際社会」 司会 斎藤裕介 パネリスト 塩屋 保、浅野幸穂、西澤昭夫	
2	14日	西澤 昭夫	「東南アジアと日本の企業」
3	21日	浅野 幸穂	「アジアの戦後処理を考える」
4	28日	大海 宏	「国際金融に反映する国際社会」
5	11月4日	益谷 真	「国際性と心理学」
6	11日	小野 哲	「情報化社会のおとしあな」
7	18日	柴沼 晶子	「国際化時代における教育の課題」
8	25日	塩屋 保	「平和研究の成立と発生」



ウーマンカレッジ

- 主 催 敬 和 学 園 大 学  
(TEL 0254-26-3636)
- 共 催 新発田市生涯学習センター  
(TEL 0254-26-7191)





# にいがたの一冊

〈新潟日報掲載 一九九四・六・一九〉

一八九〇年一月二十六日、「新潟新聞」は報じる。

「京都同志社長新島襄氏は余ほどの大病にて相州大磯に於いて治療中のよしなりしが去る廿三日遂に死去せし由」

新島死去の報（しら）せは長岡で伝道中のH・B・ニューウェルにも電報で知らされた。

「新潟新聞」は続いて二十八日も新島の経歴を県民に伝えた。

それから百年。一九九

〇年の春に本書の著者、

北垣宗治氏は新島ゆかりの同志社大学の教授を辞任し、新発田に移り住んだ。

県内初のキリスト教主義大学（敬和学園大学）の創設のためである。現

在、氏は初代学長の重責を担う。

今回、氏の手により大著、「新島襄とアーモスト大学」が日の目を見る。読み終えて教育者としての氏の精神と姿勢とが静かに胸に落ちる。

## 本県との奇しき因縁

北垣宗治 著

### 新島襄とアーモスト大学



新島（京都）と新潟。

両者が意外に近い関係にあることをこの本は明らかにする。

最晩年の新島が大きな夢を託したのがここ越後だったからである。北垣氏はこの地で新島の意志を継ぐのに最適のキリスト者にして教育者である。さらに氏は新島研究の第一人者でもある。英文学者として「アメリカ研究としての新島研究」に新境地

を拓（ひら）いた点で、つとに定評がある。「新島襄全集」の編集、英文

の新島伝記（三種類）の翻訳、新島の英文書簡（十通）の発見などその功績は大きい。アーモスト大学（アメリカ東海岸）と新潟。

細いながらも実はここにも繫（つな）がりがある。

はるか明治期に卒業生がこの地で宣教師として働いているのである。R・H・デイヴィスやささぎのニューウェルがそうである。

日本人では内村鑑三。彼の初婚と破婚、アメリカ留学（アーモスト大学）、ならびに帰国後の就職（北越学館）のいずれにも新島は関（かか）わった。

さらに新潟から転出した宣教師の後任として一八八九年に候補にのぼった人にO・ケリーがいる。彼はアーモスト大学の卒業生（新島の二年後輩）で岡山伝道を担当していた。結局、彼の来新は実現することなく終わった。

しかるに、それより百年後、新潟は北垣学長の確保に成功した。氏もまたアーモスト大学への留学生者にしてアーモスト館（同志社大学）ゆかりの人なのである。

「新島襄とアーモスト大学」が祖父と同名のケリー氏（同志社大学でアーモスト館の館長をながく務めた）に献呈されているのも奇（く）しきことである。

本井康博（同志社大学講師）

■山口書店、六、〇〇〇円。

購入ご希望の方は、敬和学園大学総務課総務係までご連絡下さい。

電話 〇二五四―二六一三六三六



# 学長室だより

敬和学園大学はこの四月に新一年生を迎えて、ようやく全学年が勢揃いし、大学らしくなりました。まだ西も東もわからない新入生もいれば、就職をめざして汗だくで奮闘している四年生や、震えながら教育実習の教壇に立ち、ときには生徒たちから「先生」と呼ばれて赤面する人々がいる。それが大学です。

来年の入学試験をさまざまな角度から

画している先生がいたら、一人でも多く就職させようとして作戦を練り、根気よく何時間でも学生の相手をしている就職委員の先生もいる。外国に出掛けて、日頃できない研究に没頭する先生もいれば、新しいカリキュラムはどうあるべきかという問題と懸命に取り組んでいる先生もいる。それが大学です。

先週は四国の松山大学で四日間

て開催された私立大学連盟主催の大学問題の講習会に参加しました。どの大学も大学改革と熱心に取り組んでいることがわかり、大きな刺激をうけました。リベラル・アーツ教育とは何か。シラバスはどうあるべきか。そういった問題を真剣に討議しました。いちばん感銘を受けたのは、学生数わずか六百の、神戸の小さなカトリック系女子大学の場合でした。修道女である学長さんは、まず全学生の名前と顔を覚えることから始めたそうです。徹底した語学教育。教育に献身する先生たち。それに堂々と反応する学生たち。それがあべき大学の筈だと痛感しました。（北垣宗治）

## 一九九四年度

# 高校別・県別統計表

敬和学園大学には北海道から沖縄まで、全国から志願者が応募するようになりました。この四月に入学した第四期生二六二名の統計をとってみました。

入学者を出身高校別に多い順に並べてみると、①31名、敬和学園 ②12名、新潟中央、新潟江南、新潟西 ③11名、新潟青陵 ④8名、新潟東 ⑤7名、西新発田 ⑥6名、巻、日本文理 ⑦5名、新津、燕、新潟北、新発田南、新潟明訓、北越、新潟

第一 ⑦4名、新発田中央、新潟清心女子となり、ここにあげた一八校のうち一校までが新潟の学校です。また今年是新発田市内の五高校から、合計二二名の入学がありました。

出身者を府県別にみると新潟県が一九四名で全体の七四パーセントを占めます。これは地元にしっかりと根をおろそうという本学の方針が反映しているわけです。ちなみに県外からの入学生は、多い順に、①9

名、山形 ②7名、富山 ③6名、静岡 ④5名、長野、栃木 ⑤4名、福島 ⑥3名、青森、群馬 ⑦2名、秋田、埼玉、東京、神奈川、福井、岐阜 ということで、どうしたわけか、石川からはわずか一名となりました。四国から三名、北海道と九州（宮崎）から一名ずつ入っています。

男女の比率は、学科別に四学年の合計からすると、英語英米文学科では男子四〇パーセント、女子六〇パーセントであるのに対し、国際文化学科では男子六七パーセント、女子三三パーセントです。

留学生数は現在中国6、韓国6、台湾1の、合計13名で、別の分け方をすると、正規学生8名、特別学生5名ということになります。







一九九四年度の入試結果について

# 志願者増加率は全国一を記録！

敬和学園大学・入試室

一九九四年度の敬和学園入学試験は、無事に終了することができました。

よくご存じのように、今春の新潟県内は大学の開学ラッシュ。四年制大学が三校一学部、短大も一校新設されました。しかも十八歳人口が全国的に減少し、有名大学が志願者を軒並み減らしているわけですから、本学にとってはたいへん厳しい入試となったわけです。

新聞等ですでに報道されましたように、本学への志願者は昨年度比で二倍以上もの大幅な増加となりました。大手予備校の調査によりますとこれは、今年度日本一の伸び率だそうです。志願者増加の要因としては、本学の教育方針や教育内容が広く理解されてきたこと、入試制度を大幅に見直し

たこと、新潟県内での四年制大学の新增設により受験生のいわゆる「四大指向」が加速されたことなどが考えられます。

志願者の増加により志願倍率は大幅に上昇しましたが、他大学との併願率も上昇しましたので、各入学試験において本学は、従来よりも多めの合格者を発表いたしました。

その結果、実際の可否を決定する実質倍率の上昇は比較的穏やかなものにとどまりました。ふだんからしっかりと勉強している受験生なら、十分に合格のチャンスがあったものと考えています。

私たちの敬和学園大学は、地元新発田市および聖籠町、そして新潟県の方々の理解とご助力とを頂



いて設立された大学です。今後も地元に根ざした大学となるための努力を続けて参りますので、よろしくご支援の程をお願いいたします。

(入試室主幹 西村秀雄)



# 入学試験の概要

## ■学部・学科

学部名	学科名	募集人員
人文学部 (昼間・男女共学)	英語英米文学科	100名
	国際文化学科	100名

## ■入試区分別募集人員

推薦入学試験による入学者……………両学科とも各45名  
(公募制と指定校制を併用)

一般入学試験による入学者……………両学科とも各55名

社会人・帰国子女・外国人留学生入試……………両学科とも各若干名

## ■入試日程

入試区分	出願期間	試験日	合格発表	入学手続締切	試験会場
推薦入試	(郵送)11月4日(金)～11月15日(火)	11月23日(水)	12月2日(金)	12月16日(金)	敬和学園大学
一般入試	前期日程 (郵送)1月4日(水)～1月20日(金)	2月1日(水)	2月10日(金)	2月24日(金)	本学、新潟、上越 仙台、東京、富山 名古屋、大阪
	後期日程 (郵送)2月20日(月)～3月1日(水)	3月10日(金)	3月17日(金)	3月27日(月)	本学、東京
	大学入試 センター試験 利用入試 (郵送)1月4日(水)～1月20日(金)	1月14日(土) 15日(日)	2月10日(金)	2月24日(金)	
帰国子女入試	(郵送)11月4日(金)～11月15日(火)	11月23日(水)	12月2日(金)	12月16日(金)	敬和学園大学
社会人入試					
外国人留学生入試	(郵送)11月21日(月)～12月5日(月)	1月21日(土)	2月10日(金)	2月24日(金)	敬和学園大学



3月

- 25日 学校法人敬和学園 常任理事会
- 28日 学校法人敬和学園 理事会・評議員会

4月

- 1日 シグマ ソサエティ発会式
- 5日 第四回入学式  
後援会総会・懇親昼食会



第4回入学式 (1994年度)

- 6日 一年次生プレイズメント・テスト
- 7日 一・三年次生ガイダンス  
二・四年次生健康診断
- 8日 二・四年次生ガイダンス  
一・三年次生健康診断
- 9日 新入生歓迎公開学術講演会  
「二十一世紀のための学問」  
講師 東京女子大学教授 本間長世先生
- 11日 カリフォルニア州立大学サンバナーティノ校  
ポーター部長 来学
- 13日 第39回教授会
- 21日 履修登録日 (26日まで)
- 22日 留学生3名 新発田郵便局1日局長
- 26日 北垣学長 新島女子短期大学で講演
- 27日 一年次生オリエンテーション (28日まで)



一年次生オリエンテーション

留学生3名 新発田郵便局1日局長

5月

- 2日 創立記念日の振替休日
- 11日 第40回教授会
- 13日 就職委員会主催「女子学生の身だしなみ講座」
- 17日 履修登録確認日
- 18日 北垣学長・延原教授・仙澤事務局長  
ノースウェスタン大学訪問 (25日まで)
- 20日 東京学館新潟高等学校 教職員29名来学
- 25日 学校法人敬和学園 監事による学内監査
- 26日 北垣学長 新発田市役所OB会で講演  
学校法人敬和学園 理事会・協議員会
- 27日 公務員・教職ガイダンス

キャンパス日誌

6月

- 1日 第41回教授会
- 3日 大学設置・学校法人審議会大学設置分科会実地調査
- 7日 北垣学長 新潟日報主催 学長サミット出席
- 8日 北垣学長 二市北蒲選挙管理委員会で講演  
特別学術講演会  
「The Spirituality of the Old Testament」  
講師 クレアモント 神学校教授 クニーリム先生



特別学術講演会 クニーリム教授

- 10日 キリスト教学校教育同盟第82回総会  
274名の出席 (11日まで)  
三年次生就職セミナー  
講師 株式会社就職予備校代表取締役 福島正伸先生
- 18日 ウーマンカレッジ開講 (11月19日までの土曜日・10回)
- 19日 英語検定
- 24日 村松高等学校PTA15名見学
- 28日 学校法人敬和学園 常任理事会  
北垣学長 豊栄市小・中学校PTA連合会で講演
- 30日 大学設置・学校法人審議会学校法人分科会実地調査  
酒田南高等学校教員2名視察

7月

- 1日 求人票揭示開始
- 2日 前期講義終了
- 4日 前期試験 (13日まで)
- 5日 富山西高等学校・富山第一高等学校視察
- 6日 第42回教授会
- 13日 ボランティア・ウィーク (16日まで)
- 14日 夏期休暇開始
- 18日 夏期短期留学  
カリフォルニア州立大学サンバナーティノ校へ18名  
出発 (8月21日まで)
- 19日 夏期短期留学  
ノースウェスタン大学へ3名出発 (8月21日まで)
- 31日 夏期短期留学  
アングロコンチネンタルへ13名出発 (9月5日まで)